

ニュースから考える



数千年の歴史を持つある国の王朝が崩壊の危機です。原因不明の疫病（コロナ）が流行し、同時に数千億匹のイナゴの大群が押し寄せ・・・しかも、抑圧で苦しめられた民衆は暴動（香港）の真っ最中。しかし・・・これは数千年前の出来事ではありません。

これに予言者でも現れたら・・・リアル三国志の世界を私たちは目撃している事になります。勿論・・・偶然でしょうが・・・。

その当時と違う点は・・・ある王朝は世界中に製品を輸出し、数億人の人が労働や観光で各国を訪れました。その結果、疫病は世界中に蔓延・・・貧困（物不足）の影響も広がっています。

実際、私たちの国でも人の交流を控えるよう政府が要望、宴会や外出、旅行などの自粛、学校の閉鎖など消費が減少した事により観光・飲食関連の業界にとっては壊滅的なダメージとなりました。また、企業にとっては低価格の輸入品が入手出来ない影響で製造業や建設業、小売業が困っています。

今回の感染拡大で一つの国という単位ではなく世界は繋がっている事を改めた考えされられる出来事です。

1分でわかる業務カイゼン

ナポレオンの失敗から学ぶ

「歴史は繰り返す」という格言があります。これはドイツ哲学者が200年以上前に語ったとされています。背景はナポレオンの失敗を後継者が繰り返した事が語源ですが

他人事ではありません。

皆さんは「投資ジャーナル事件」を皆さん覚えていますか？これは「兜町の風雲児」と呼ばれた中江滋樹氏が「絶対に儲かる」株売買をすると580億円もの



投資を集めた詐欺事件で(本年2月アパート火災で

当事者は死去)現役アイドルの愛人騒動も加わり世間の注目を集めました。

その後も「商品」は変われど・・・似たような投資話で騙された・・・と最近もニュースになっています。他人様に親切に儲け話を教えてくれる人を疑もなく信じる方が悪いと考えるにも当然な心理ですよ・・・。

一方、企業にとっての悲劇である倒産も数千年前から繰り返されています。昨年だけでも国内で8,000社以上の倒産がありました。詐欺に遭う人が自分は騙されないと思っていたように、経営者が自分は絶対倒産しないと考えるのには問題がありそうです。

会社（王朝）崩壊の予兆

哲学者でなくても「成功（運）は永遠に続かない」という事を数々の失敗体験で私たちは気がついていてます。事業が順調な人は今たまたま「運」が良い状態なのだと思います方が良さそうです。

例えば、人が辞める・新規得意先が増えない・今の事業に将来性がない・もしかしたら病気の前兆かも知れません。

今回のコロナウイルスの世界的な拡散の背景には



発信源である中国やWHOなどの認識の甘さ、予防への対策の遅れが指摘されています。

私たちはその教訓を企業経営に生かしま

しょう。会社を蝕む病気の予防と感染拡大の兆候を見逃さない・それを阻止できなければ沢山の苦労や努力の結果、築き上げた会社（王朝）が一瞬で崩壊してしまいます。これも歴史が証明しています。

自分には関係がない？ 連鎖倒産

世間に広がるデマなどの風評によりトイレットパーなどが店頭から一時的に消えました。製造メーカーなどは生産が問題ないから大丈夫といっても不安

を抱える消費者心理は止まりません。さらに数名の感染者がスポーツクラブ（ジム、フィットネスクラブ）に通っていたとの情報で関係のないクラブで退会・休会が増加しているようです。いつ風評がわが身に押し寄せ連鎖倒産に巻き込まれないとも限りません。

そう考えると、経営者の悩みは尽きません・常に危機管理を考えるのが経営者です。いつも言いますが・経営者業とは悩む事だと言っても過言ではないでしょう。

今月の経営のヒント！

うがい、手洗い、マスクのように・それぞれの会社で守るべき「仕事の基本」が徹底されているかを確認しましょう。



今月のことば

「吃亏时节便宜在（損して得とれ）」

目先の利益や損得を考えると大きな損をすることがあり、逆に今の損を我慢すれば最終的に大きな得を得ることがあるということです。

昔は「損して徳とれ」と言い「損してでも一生懸命頑張れば人が認めてくれ」という意味だったようです。中国人の考え方も現代風となり若干変わってきているようです。

中国のことわざ

編集後記:

好景気のあとの、停電、増税、突然のインバウンドの減少・まさに試される大地、北海道です。しかし、試されているのは企業も同じです。

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合（TKCが証明するデータを使用しています）

最近1年間：65.0%

（国税局の発表によると法人の黒字割合は33.2%（28年4月～29年3月）です）